

人口減少社会における生活に関する市民意識調査

市民意識調査の概要

- 【調査対象】住民登録されている18歳以上の市民から4,000人を無作為抽出
- 【調査方法】郵送による配布、回収
- 【調査期間】2016年(平成28年)10月6日(木)～19日(水)(2週間)
- 【実回収数】2,179人(回収率54.5%)

人口減少社会における生活に関する市民意識調査

市民の皆さまには、日頃から福山市の都市行政に理解とご協力をお願いいたします。本市は、国・県・市町村と、少子高齢化による人口減少に加え、東京や大阪など大都市圏への若年層の流出により、今後、地方都市の人口は急速に減少し、2050年(平成62年)には、全国の市町村の中で人口が最も少ないと見られています。

また、国の将来推計によれば、徒歩や自転車で行ける範囲(以下「徒歩圏内」といいます。)に商業施設として、「日用品店と食料品店をスーパーマーケット」、「個人商店など全規模の小売店舗やコンビニエンスストア」、「病院」がそれぞれ30に減少しています。これらの施設は、徒歩圏内に居住している方の人口(以下「徒歩人口」といいます。)に左右されているため、人口減少が深刻な問題となり、対策を講じていくことが必要とされています。

その一方で、高齢者が暮らせるようには不慣れな生活環境、高齢化などの理由により、徒歩圏内の施設が少なく、生活に重大な支障を生じることが考えられます。この状況を改善するため、2014年(平成26年)に都市計画特別調査(平成26年度調査)が実施され、都市計画の観点から、将来にわたって居住環境や都市機能の向上、公共交通の充実等を行うため、市地適正化計画が策定されました。

これを機会に、福山市では、2016年度(平成28年度)から市地適正化計画の策定に向けた調査に取り組みしています。この市地適正化計画は、人口減少の進行に伴い生じる様々な問題を踏まえた上で、適正な土地利用を図り、生活環境の向上を図るため、市地適正化計画策定の基となるものと見られ、今後、こうした調査と、ご協力をお願いいたします。

調査に当たって「静かさと静けさがある」としていただきたくお願いいたします。

2016年(平成28年)10月
福山市長 枝廣 直幹

【記入のお願い】
○ アンケート調査票は、市内に住民登録されている方から4,000人を無作為に抽出し、送付いたします。
○ アンケート調査票は、自治体の行政目的でのみ、活用させていただきます。個人情報は厳重に管理いたします。
○ アンケート調査票は、記入後は必ずお返しいただくようお願いいたします。なお、調査票への記入は同封の用紙に、お返しの方法としてお返しいただくようお願いいたします。
○ 同封の2016年(平成28年)10月19日(水)までに、同封の返信用封筒に調査票を入れて、返送していただき、(返送は不要です)お返しの方法としてアンケート調査票にお返しいただくようお願いいたします。

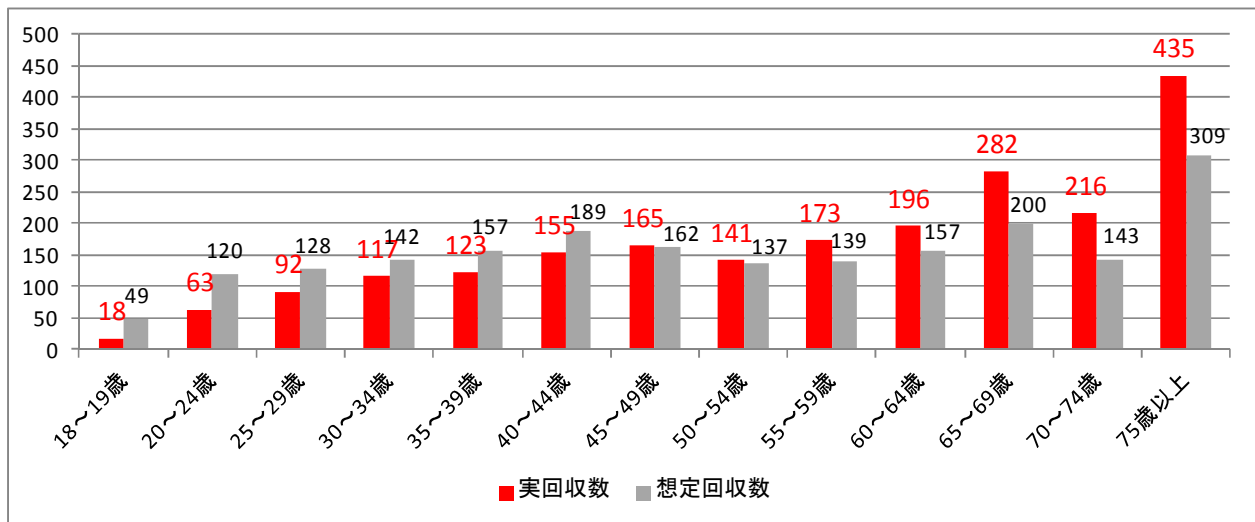
問い合わせ
福山市環境 建設部 都市計画課
TEL: 084-928-1002
FAX: 084-928-1735

アンケート調査票

1 市民意識調査の結果

(1) 年齢別回収状況

次の図は、アンケート調査票の年齢別の実回収数と、仮に実際の年齢別人口構成の比率どおり回収された場合の想定回収数の比較を行ったものです。これによると、年齢が高くなるほど、実回収数が想定回収数を上回る傾向にあることがわかります。

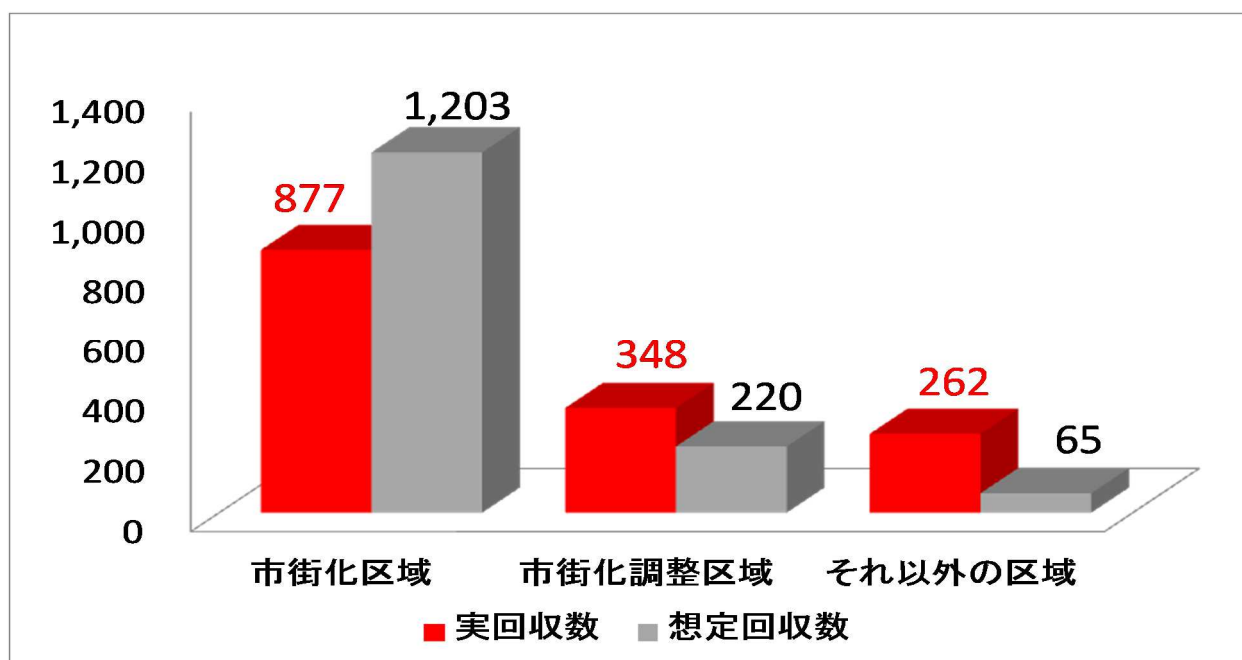


想定回収数は2016年度住民基本台帳データから算出

(2) 区域別回収状況

次の図は、アンケート調査票の区域別の実回収数と、仮に区域別の実際の人口比率どおり回収された場合の想定回収数の比較を行ったものです。

これによると、市街化区域*の実回収数は想定回収数より少ない一方で、市街化調整区域*やそれ以外の区域の実回収数は多いことから、これらの区域にお住まいの人は、人口減少問題に対する関心が高いことがうかがえます。

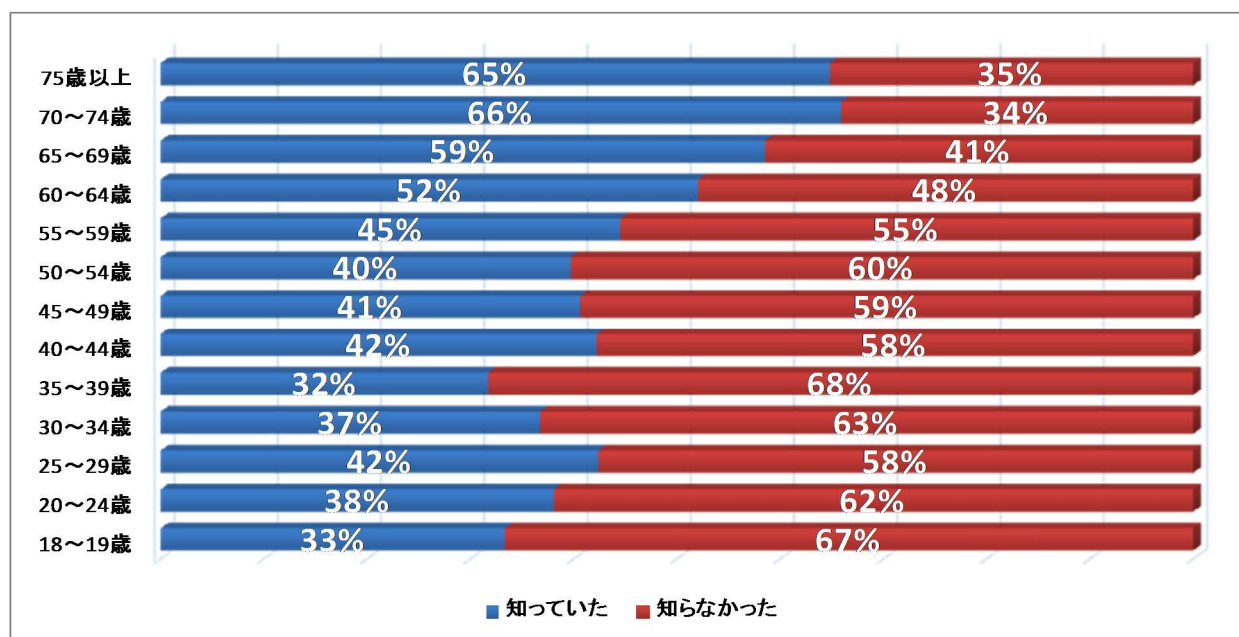


想定回収数は国勢調査データから算出

(3) 回答結果の分析

問1 人口減少に対する認知度

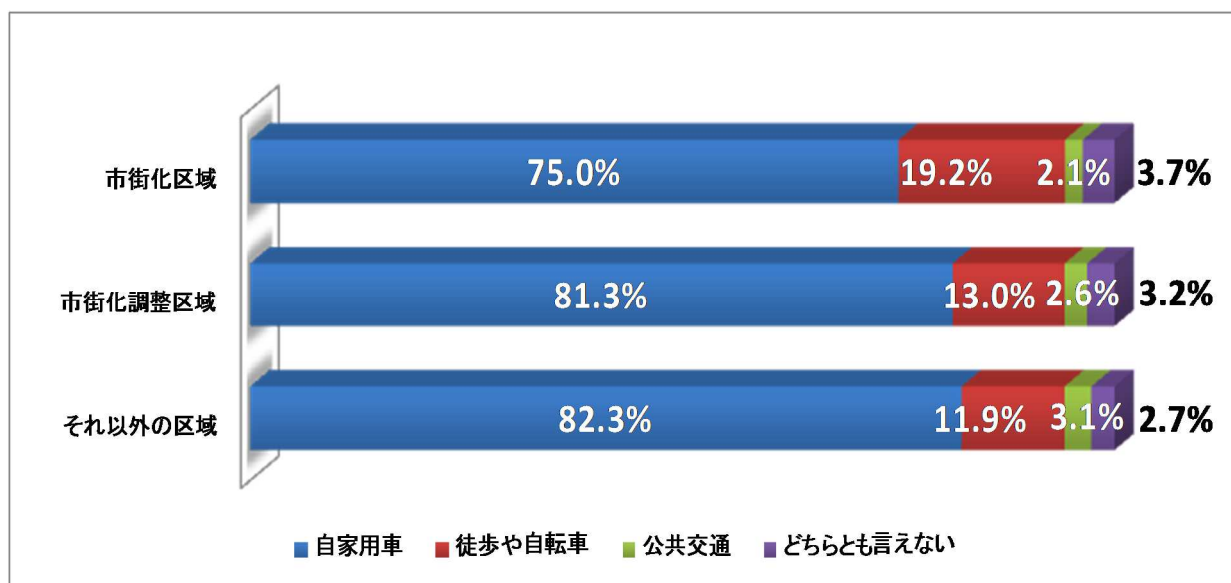
本市の人口が将来減っていくことを知っているかという問いに対して、高齢になるほど「知っていた」という回答が増える傾向にあることがわかりました。



問2 自家用車への依存度

徒歩圏内に必要な施設として「日用品などを販売するスーパーマーケット」や「個人商店など小規模な小売店舗やコンビニエンスストア」、「病院」（以下「日常生活に不可欠な施設」といいます。）などを利用する手段については、市街化区域では7割以上、市街化調整区域及びそれ以外の区域では、共に約8割の人が自家用車に依存した生活を送っていることがわかりました。

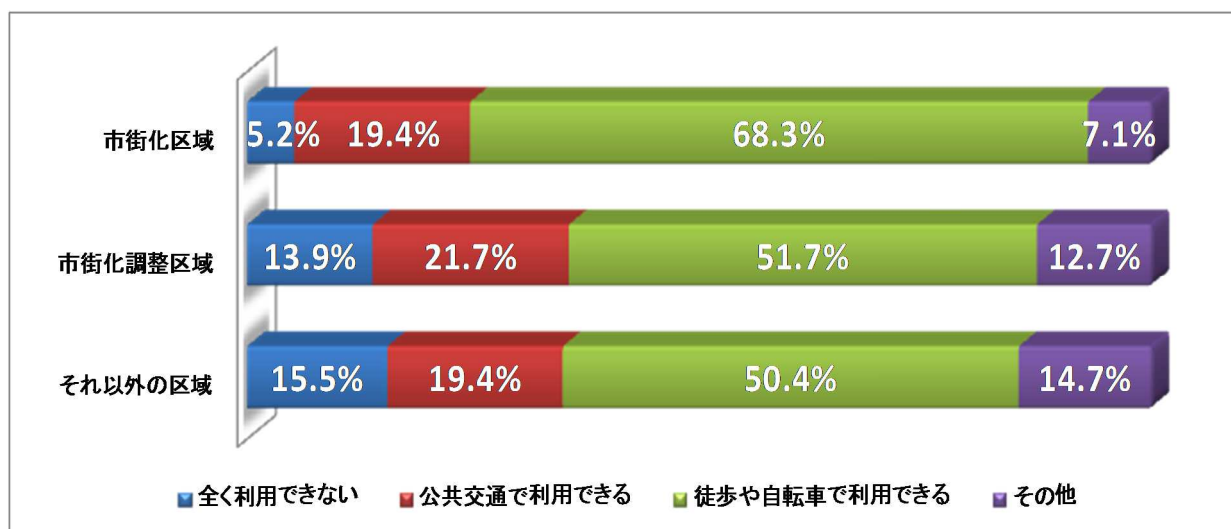
一方で、徒歩や自転車を利用している割合は、市街化区域のほうが高いという結果が出ています。



問3 自家用車以外の移動手段

日常生活に不可欠な施設のうち、自宅から最も近くにあるものでも、自家用車が無いと全く利用できないと回答した人の割合が、市街化区域に対して、市街化調整区域及びそれ以外の区域で約3倍となっています。

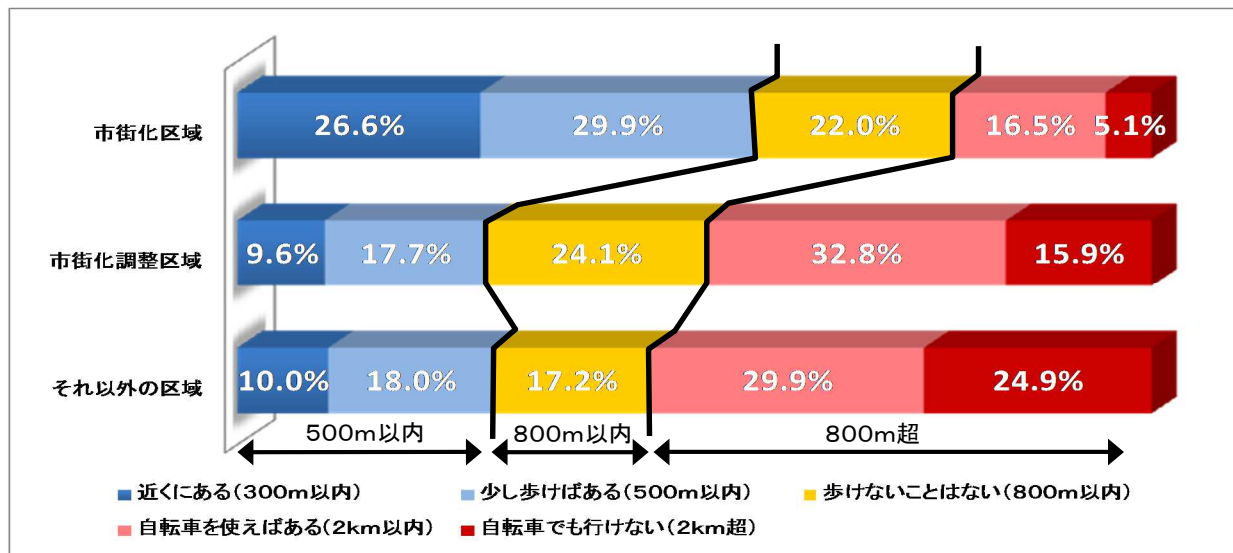
また、徒歩や自転車での利用が可能な人は、市街化区域に対し、市街化調整区域及びそれ以外の区域がそれぞれ15ポイント程度下回っているという結果が出ています。



問4 日常生活に不可欠な施設までの距離

市街化区域にお住まいの人のうち約6割の人が自宅から500m以内に日常生活に不可欠な施設があると回答したのに対し、市街化調整区域及びそれ以外の区域にお住まいの人は、その半分の約3割にとどまっています。

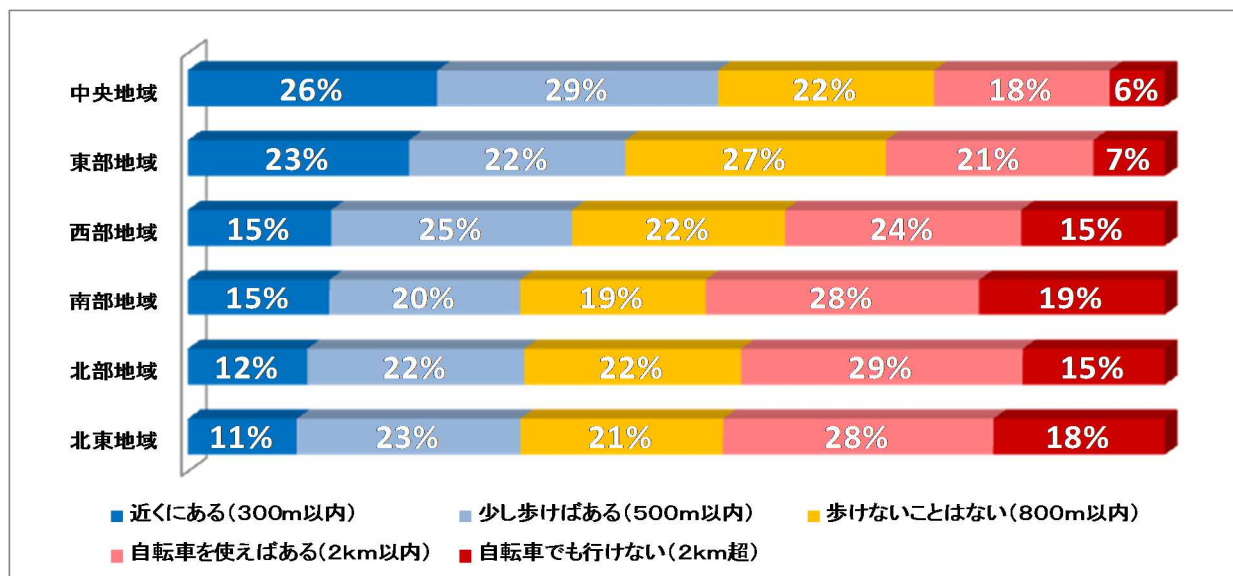
一方で、800mを超える距離にあるという人が、市街化区域に約2割存在するのに対して市街化調整区域及びそれ以外の区域では、5割程度存在します。



地域別（原則、中学校区を単位とした地域のまとまり）に見てみると

商圈人口（17ページ・図-16参照）が多い中央地域と東部地域は、日常生活に不可欠な施設が500m以内にあるという人が4割を超えています。

一方で、商圈人口の少ない南部地域、北部地域及び北東地域においては、800mを超える距離にあるという人が、4割以上という結果が出ています。



中央地域：東，城北，城南，鷹取，幸千（千田），済美，中央，誠之，城西

東部地域：城東，鳳，培遠，大門，一ツ橋，東朋

西部地域：大成館，松永，精華

南部地域：向丘，鞆，走島，至誠，千年，内海

北部地域：芦田，山野，広瀬，加茂，駅家，駅家南，幸千（御幸），常金，新市中央

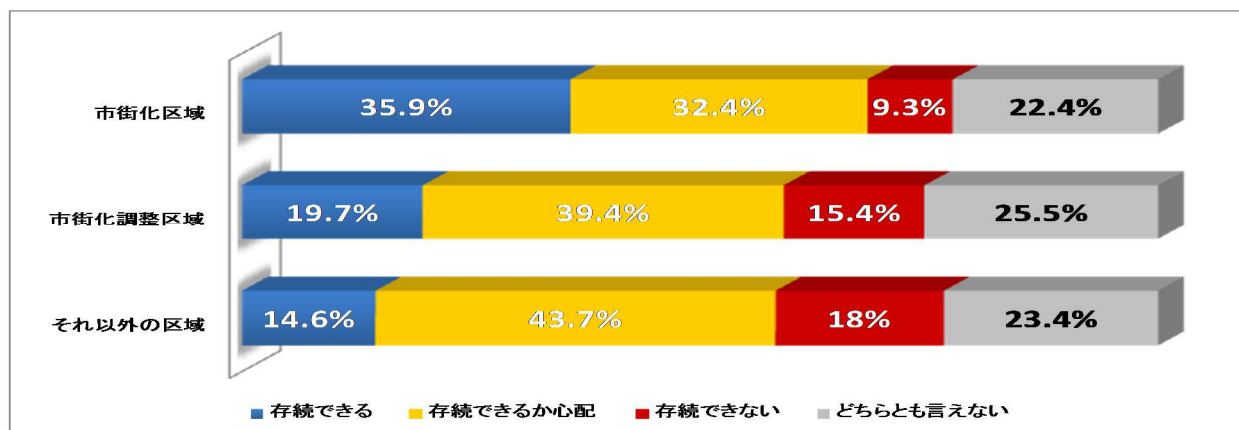
北東地域：神辺，神辺東，神辺西

問5 日常生活に不可欠な施設の存続の可能性

人口減少が進んだ場合でも、これらの施設が存続できると感じるかとの問いに対し、市街化区域にお住まいの人の4割近くが存続できると回答している一方で、市街化調整区域やそれ以外の区域では、2割に満たない状況です。

こうしたことから、日常生活に不可欠な施設の多くは、周辺に居住する顧客によって経営が成り立っていると感じているのが分かります。

また、存続できるか心配、あるいは存続できないと回答した人は、市街化区域で約4割、市街化調整区域で5割以上、それ以外の区域では6割以上です。郊外に行くにつれ、その存続可能性に不安を感じている人が多いという結果が出ています。

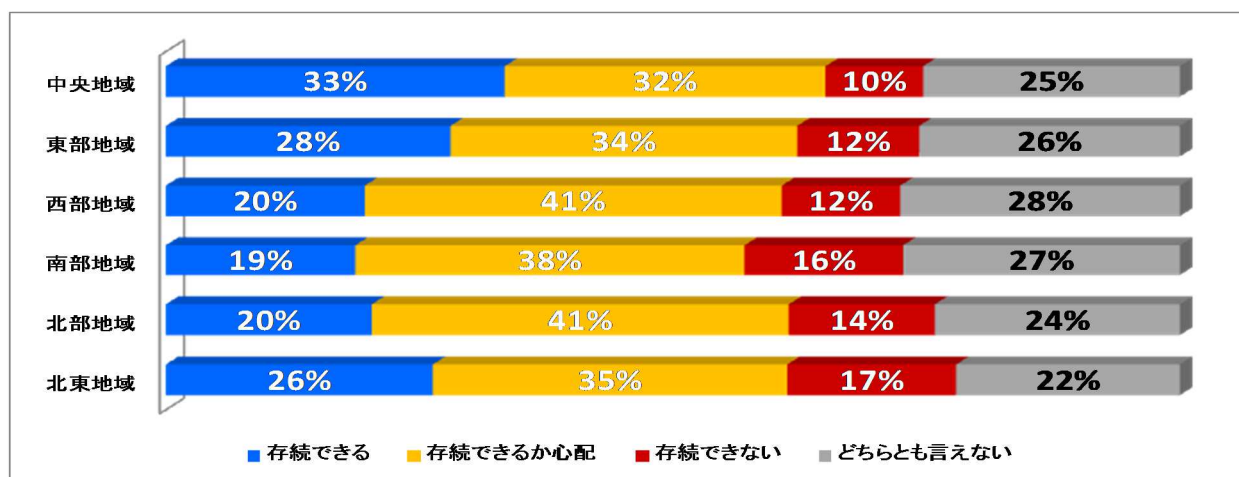


地域別に見てみると

地域の大半が市街化区域で、商圈人口（17ページ・図－16参照）の多い中央地域と東部地域では、存続できると感じている人が3割前後、存続できないと感じている人は1割程度となっており、存続できると感じている人が多いという結果が出ています。

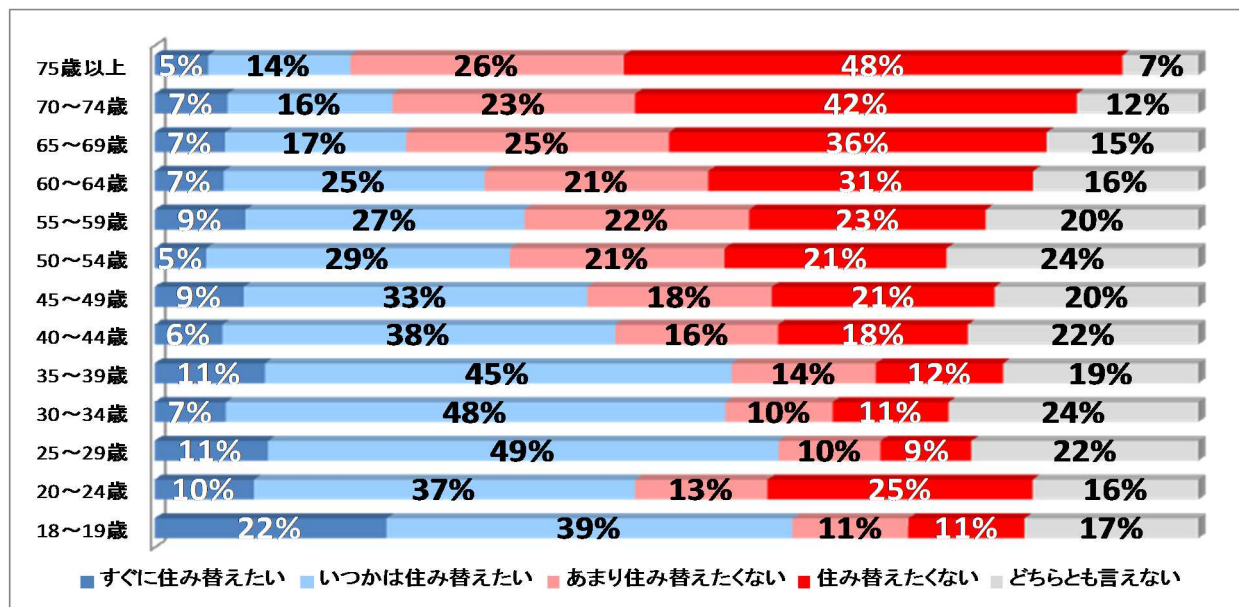
西部地域、南部地域及び北部地域などの商圈人口の少ない地域においては、存続できると感じている人が2割前後となっています。

また、北東地域においては、存続できると感じている人が3割近くと多いにもかかわらず、存続できないと感じる人も約2割いるという結果が出ています。



問6 日常生活に不可欠な施設の存続が可能な地域への住み替えの意向

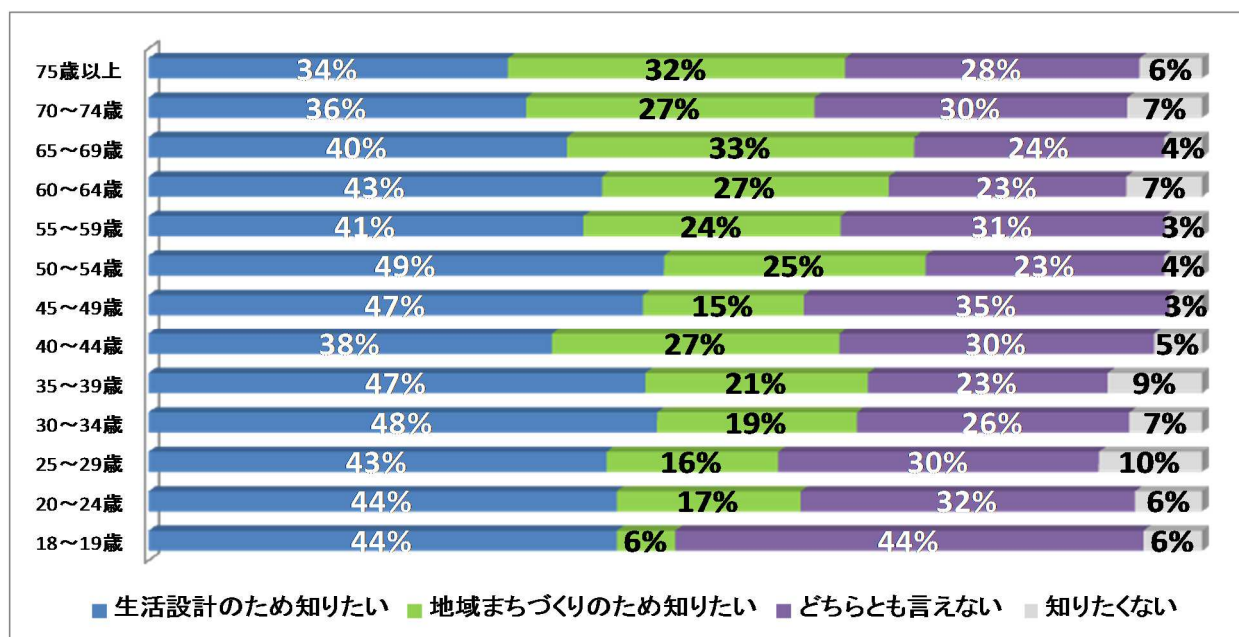
金銭的理由などが無いとした場合に、日常生活に不可欠な施設の存続が可能と考えられる地域があるとしたら、住み替えたいかとの問いに対し、年齢が若いほど「すぐに住み替えたい」、「いつかは住み替えたい」と思う人の割合が高く、高齢になるほど「あまり住み替えたくない」、「住み替えたくない」と思う人の割合が高くなる結果が出ています。



問7 人口減少等に関する情報提供に対する要望

将来想定される人口の分布状況が示された地図など、将来の生活設計などに必要な情報を知りたいかとの問いに対し、多くの人が知りたいと回答しており、知りたくないと回答した人は各年齢において1割前後となっています。

また、活用目的としては、年齢が若いほど「生活設計」と回答する傾向があり、高齢になるほど「地域のまちづくり」と回答する傾向があるという結果が出ています。



(4) その他人口減少などに関する意見

633名の方から955件の人口減少などに関する自由意見をいただきましたが、設問に対する回答を補足する内容のものをいくつか紹介します。

- ・人口減少に危機感が無いのがダメだと思う。もう少し危機感が伝わるよう市民に知らせていくことも必要だ。
- ・これから、一生福山に住む為に家を建てる事を考えているが、そうなるとこういった情報も市民に知らせていく事は大事だと思う。
- ・最低限必要な食品や日用雑貨を買うのにも車の運転はできないし、身体が弱く外出さえできない一人暮らしの身内を見ていると大変不安。
- ・人口減少によって、公共交通を利用したくても、交通手段が減っていくこともあるので、バスについては、特に現在も、減っていて、将来は不安になる。
- ・人が少なくなったら、町の動きがなくなる。小売店の酒屋、くすり屋、米屋がなくなった。店がなくなっている。
- ・徐々にコンパクトシティの方向で駅の近くにスーパーや病院を集めていく方が良いと思う。
- ・私の住む町内でも色々な小売店が店を閉め今では閑散としているように感じる。コンビニ袋を片手に杖をつきながらようやくの思いで歩くお年寄りを最近目にする事が多い。
- ・市民一人ひとりが、まちづくりや人口減少について、しっかり考えていけるよう情報提供や話し合いの場が必要だ。
- ・若い人に魅力ある職場がたくさんあれば、人口減少しないと思う。福山市の産業の発展を進めてほしい。
- ・子どもは欲しいが経済力が不安であり、共働きをするにも保育施設が不足している、環境づくりを充実させれば若いご夫婦の方々も安心して働けると思う。
そうすればおのずと子どもも増えていくのではないか。
- ・福山市レベルの人口なら将来も踏まえコンパクトシティを目指すべき。

(件)

人口減少に関するもの		
	質問の回答を補足するもの	327
	(問1)人口減少に対する認知度	177
	(問2)自家用車への依存度	29
	(問3)自家用車以外の移動手段	59
	(問4)日常生活に不可欠な施設までの距離	17
	(問5)日常生活に不可欠な施設の存続の可能性	19
	(問6)日常生活に不可欠な施設の存続が可能な地域への住み替えの意向	17
	(問7)人口減少等に関する情報提供に対する要望	9
	その他の人口減少に関するもの	202
	高齢者の介護・医療に対する不安	106
人口増加に関するもの		378
	都市の魅力向上	161
	経済活性化	83
	子育て支援	134
その他		48
	アンケートに関するもの	19
	その他	29
合計		955

イ 市民意識調査のまとめ

調査結果では、人口減少に対する関心は高齢者になるほど高く、市街化調整区域やそれ以外の区域のほうが高い傾向が見られました。

また、市街化区域、市街化調整区域及びそれ以外の区域のいずれも自家用車への依存度が高い一方で、高齢化などの理由により自家用車が使えなくなった場合の生活への影響は、市街化調整区域及びそれ以外の区域のほうが大きいことがわかりました。

市街化区域では、将来人口が減少した場合に、日常生活に不可欠な施設が存続できると考えている人が、他の区域と比べて多い一方で、存続に不安を感じている人も多いことがわかりました。

最後に、年齢の若い人が、日常生活に不可欠な施設の存続が可能な地域への住み替えの意向が高く、そうした地域の情報提供を、多くの人が希望しているという結果が出ました。